

Title	橋本孝先生略歴
Sub Title	
Author	
Publisher	三田哲學會
Publication year	1965
Jtitle	哲學 No.46 (1965. 2) ,p.A1- A4
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000046-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

橋 本 孝 先 生 略 歴

先生は、(1895年)明治28年2月14日、栃木県鹿沼市酒野谷(旧称は上都賀郡東大芦村大字酒野谷と云つた)橋本久三郎の四男として生れた。現在は、東京都港区赤坂青山高樹町12番地の4号に居住している。家族は先生夫妻、養嗣子夫妻、孫男児二名と共に暮している。家庭の宗教は仏教の曹洞宗であるが、いずれかと云えば先生は無宗教と云つてよい。

学 歴

- 1902年(明治35年4月) 酒野谷尋常小学校入学。
1906年(明治39年3月) 同校卒業。
1906年(明治39年4月) 南摩村立高等小学校入学。
1908年(明治41年3月) 同校二年修業。
1908年(明治41年4月) 栃木県立宇都宮中学校入学。
1909年(明治42年3月) 同校中退。
1911年(明治44年4月) 慶應義塾普通部二年編入学。
1915年(大正4年3月) 同校 卒業。
1915年(大正4年4月) 慶應義塾大学予科入学。
1917年(大正6年3月) 同 予科修了。
1917年(大正6年4月) 同 大学部文学科哲学入学。
1920年(大正9年3月) 同 大学部文学科哲学卒業。
1926年(大正15年10月) 慶應義塾海外留学生として渡欧、主としてドイツに滞留し、ベルリン大学に於ても多少の聴講をしたが、おもにフライブルク大学に在学して、現象学の開祖、エドムント・フッサル老教授の下で、哲学及び倫理学を研究し、ドイツ、スイス、オーストリア、イタリア、イギリス、オランダ、ベルギー、ロシア等各国を見学して学術文化や人情風俗その他を具さに見聞した。此の間本塾の石田幹事、作家の芥川龍之介、哲学者社会学者としても令名のたつたマックス・シェーラー死す。
1928年(昭和3年12月末) 欧洲留学より帰朝。

職歴

- 1920年（大正9年4月） 慶應義塾普通部教員に就任.
- 1922年（大正11年1月） 同大学文学部講師に任せらる.
- 1922年（大正11年12月） ヘルデル「歴史哲学」下巻翻訳に専念するため、普通部教員を辞任.
- 1923年（大正12年4月） 慶應義塾大学予科教員兼務.
- 1923年（大正12年4月） 同 専門部講師兼務.
- 1925年（大正14年3月） 同 専門部講師辞任.
- 1929年（昭和4年1月） 慶應義塾大学文学部助教授に任せらる.
- 1931年（昭和6年1月） 同 大学文学部教授に昇任.
- 1933年（昭和8年12月） 慶應義塾普通部主任を兼務（この年9月、父久三郎長兄宅に於て逝去さる.）
- 1935年（昭和11年3月） 慶應義塾大学予科教員辞任（この間戦後、常任理事に就任するまで、塾内協議会、大学評議会、学事振興資金委員会等の各種委員を歴任する.）
- 1941年（昭和16年7-9月） 満洲国建国十周年記念式典に招待された機会に、各地見学のため、本塾望月支那研究資金の補助受けて、約3カ月に亘り、満・鮮・北支等を歴訪、各地三田会や満重工の特別な好意により、予想以上の収穫を得て帰国することが出来た。しかしこの年12月8日には、未曾有の太平洋戦争が勃発し、爾来数年間に亘る辛苦は言語に絶するものがあつた。殊に翌41年（昭和17年6月）には父代りのような厄介をかけた長兄が岡町の自邸で逝去したことは、非常なショックであつた。
- 1940年（昭和19年4月） 慶應義塾普通部の外、同商工学校、同商業学校及び藤原工業大学附属工業学校の各主任を兼務.
- 1945年（昭和20年3月27日） 母が郷里に於て逝去した報を受けいそいで駆けつける。加之、8月15日は、太平洋戦争終結の日として、一生忘れることの出来ない年となつた。
- 1946年（昭和21年3月） 慶應義塾普通部、商工学校、商業学校及び藤原工業学校各主任を辞任.
- 1946年（昭和21年4月） 高橋塾長代理の下で慶應義塾常任理事に推挙され学務関係一切を担当.
- 1947年（昭和22年1月） 同 常任理事退任、教授専任に戻る.

1947年（昭和22年1月から37年6月迄）慶應義塾大学語学研究所長を兼務。

1947年（昭和22年3月—6月まで），本塾創立九十年祭の実施本部長を委嘱さる。

1947年（昭和22年12月） 慶應義塾大学通信教育部長兼務。

1948年（昭和23年4月） 慶應義塾大学文学部長兼務。

1948年（昭和23年5月） 同大学通信教育部長解任。

1951年（昭和26年2月） 同大学文学部長辞任。

1951年（昭和26年2月） 慶應義塾常任理事に再び推されて大学学務一切を担当，（一時文学部の授業を中止する）

1956年（昭和30年1月から33年まで），本塾創立百年記念祭の企画委員会委員を委嘱さる。

1956年（昭和31年3月） 慶應義塾常任理事を退任。

1956年（昭和31年4月） 同 大学文学部教授如故。

1956年（昭和31年7月以降） 同大学文学部図書館学科主任として今日に至る。

1958年（昭和33年3月—11月） 本塾創立百年記念式典委員会委員長を委嘱さる。

学界その他の活動

著書論文等の詳細は，資料不足のため正確な調べがつかず，主なるものを略記することに止める。

「プラトン倫理学説の研究」「現代哲学の動向」「現象学と現象学的心理学」「マックス・シェーラーの実質的価値論理学の根本問題」等の他，哲学，理想その他専門学術雑誌の外，各種の新聞雑誌に無数の論文その他を発表する。

1946年（昭和21年1月以降） 三田哲学会長。

1949年（昭和24年3月以降） 日本哲学会会員。

1949年（昭和24年3月以降） 日本倫理学会会員となり，一期間監事に就任，
その他現在に至るまで，各種学会の委員並に役員に就任する。

1946年（昭和21年6月），文部省，中央教育職員適格審査委員会委員を委嘱さる。

1946年（昭和21年10月） 文部省，大学設置基準設定協議会委員に任命される。

1947年（昭和22年7月） 全国国公私立の有力大学四十六校の発起で結成された大学基準協会の初代副会長に選任さる。

1947年（昭和22年9月） 文部省，大学設置基準設定協議会解散のため委員を退任する。

- 1947年（昭和22年12月） 文部省、大学設置委員会臨時委員に任命さる。
- 1948年（昭和23年1月） 文部省、通信教育審議会委員に任命され、大学通信教育部会長を委嘱さる。
- 1948年（昭和23年4月） 日本育英会特別奨学生委員会委員を委嘱さる。
- 1948年（昭和23年6月） 文部省、大学設置委員会臨時委員を辞任する。
- 1948年（昭和23年7月） 文部省、大学設置委員会委員に任命さる。
- 1949年（昭和24年4月—翌35年3月迄） 文部省、通信教育審議会会长を委嘱さる。
- 1950年（昭和25年8月） 文部省、大学設置委員会委員を制度改正により退任。
- 1950年（昭和25年9月） 文部省、大学設置審議会委員に任命さる。
- 1952年（昭和27年6月） 大学基準協会長に選任さる。
- 1953年（昭和28年10月） 日本育英会特別奨学生委員会委員を解任さる。
- 1954年（昭和29年1月以降） 日本育英会大学院奨学委員会委員を委嘱され、引続き重任して今日に至る。
- 1955年（昭和30年5月より翌31年6月迄） 文部省、大学基準等研究協議会委員に任命され、文学部会の委員長を委嘱さる。
- 1957年（昭和32年7月） 創立十周年記念式典終了後、大学基準協会長を退任。
- 1958年（昭和33年11月より37年10月迄） 全国大学教授連合評議員に選出さる。
- 1959年（昭和34年6月より翌35年10月迄） 文部省、大学基準等研究協議会委員に任命され、会長に選任さる。
- 1960年（昭和35年4月より12月まで） アジア教育者会議の実行委員会委員長の委嘱を受く。
- 1960年（昭和35年10月） 文部省、大学設置審議会委員を退任する。
- 1961年（昭和36年10月） 日本ユネスコ国内委員会委員に任命さる。
- 1963年（昭和38年11月） 文部省、学校施設基準規格調査委員会（大学図書館小委員会）委員に任命さる。
- 1964年（昭和39年10月） 日本ユネスコ国内委員会委員に再任さる。

賞

1961年（昭和36年5月5日）

永年私学教育に従事し且つ大学制度の確立に努めて公共の利益につくした功績により藍綬褒章を受く。

1964年（昭和39年末） 識之